

(仮称) 野洲市民病院整備

基本設計業務

基本設計 概要書

平成 29 年 06 月



(株)佐藤総合計画

1 計画説明書

I 計画の基本方針

1. 全体計画

○「野洲ヘルスケアタウン」—病院から始まるまちづくり

- ・ 駅前に立つ病院という特性を活かしながら、「野洲駅南口周辺整備構想」の先駆けとして、多世代交流型のまちづくり、「(仮称)野洲ヘルスケアタウン」(以下「野洲ヘルスケアタウン」とする)を実現する重要な役割を担います。

(1)「駅前新病院」の意義を十分に理解した計画

- ・ 「病院整備基本計画」「基本計画(精査結果報告書)」「野洲駅南口周辺整備構想」の3つの報告書の理念を推進し、今まで長く、慎重なプロセスを経て決定した計画地における病院の基本方針を尊重し、地域に信頼される病院とします。

(2)「野洲駅南口周辺整備構想」の先導モデル

- ・ 病院北側前面の遊歩道を南口周辺整備地区全体を貫く「(仮称)ヘルスケアストリート」(以下「ヘルスケアストリート」とする)として計画。
- ・ 「野洲市民病院」、「交流/商業施設」と今後整備されていく、「市民広場」、「文化・スポーツ施設」、「交流施設」などの先導的な役割を担う計画と位置付け、「ヘルスケアストリート」を軸とした多世代交流型のまちづくりが可能な計画とします。

2. 基本方針

(1)患者に優しい計画

- ・ ワンフロアで受診を完結できるわかりやすい外来部門計画とします。
- ・ 在宅復帰機能を高める回復期リハビリ病棟の計画や、見守りしやすい個室ゾーン、生活機能訓練もできるデイコーナーなど、患者に優しい療養環境を実現します。

(2)安全で安心な外部動線計画

- ・ 病院北側の「ヘルスケアストリート」に面して、病院の主出入口を計画。将来予定されている施設群と呼应しながら、公共交通機関からの安全なアプローチの確保と、人の流れを生む「(仮称)ヘルスケアパーク」(以下「ヘルスケアパーク」とする)を計画します。
- ・ 将来、整備が予定されている市民広場側に雨に濡れずに送り迎えができる安全な一般車ロータリーを計画。立体駐車場と病院は、屋根つきの「(仮称)市民デッキ」(以下「市民デッキ」とする)で連絡させることで、雨に濡れずに安全な来院が可能な計画とします。

(3)働きやすい部門配置計画

- ・ 救急外来、放射線部門等、連携が必要な部門を隣接配置した働きやすい部門配置計画とします。
- ・ スタッフ休憩(食堂)・図書コーナー、パウダーコーナーなど、充実したスタッフ環境を実現します。

(4)まちの記憶を継承する

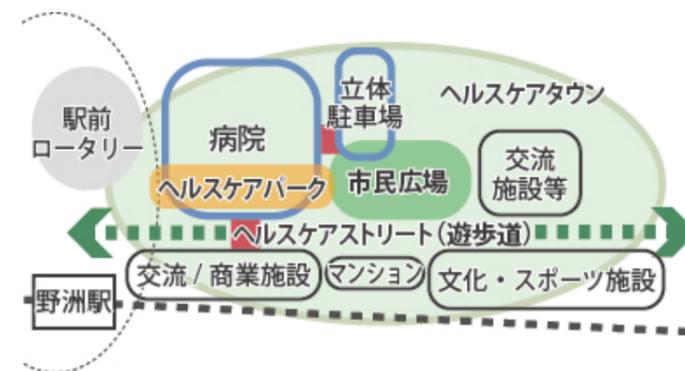
- ・ 中山道と朝鮮人街道が交差し、人・物・事が「行き合い」発展してきた、「ゆきあいのまち」としての記憶を継承した、「病院」、「交流/商業施設」など施設の相互連携を可能とする計画とします。
- ・ 木格子、琵琶湖の簾などの地域の記憶をモチーフにした外観計画とします。



野洲駅南口周辺整備構想 対象区域



野洲駅南口周辺整備構想 機能配置図



「野洲ヘルスケアタウン」のイメージ



病院より「ヘルスケアストリート」を望む



駅前より病院を望む

1 計画説明書

II 計画概要

1. 建築概要

建物名称	野洲市民病院
所在地	野洲市小篠原字向平田2203番1他
敷地面積	約5,500㎡(病院施設敷地)、約3,600㎡の一部(立体駐車場施設)
主要用途	病院、立体駐車場
病床数	199床
建築面積	3,419㎡(病院)、1,832㎡(立体駐車場)
延べ面積	16,322㎡(病院)、7,125㎡(立体駐車場)
建築物の規模	・病院：地上6階、塔屋1階 ・立体駐車場：4層5段(250台)
構造	・病院：鉄骨構造(免震構造) ・立体駐車場：鉄骨構造

2. 設備概要

電気設備

受電電源	3φ3W6.6KV本線・予備線2回線受電方式
電力設備	受変電設備・自家用発電機設備・静止型電源設備・無停電電源設備・幹線動力設備・電灯コンセント設備・医療用接地設備・雷保護設備
弱電設備	電話設備・情報設備・拡声設備・テレビ共聴設備・医療通信設備・監視カメラ設備・入退室管理設備・駐車場管制設備
防災設備	非常放送設備・自動火災報知設備

昇降機設備

エレベーター	【EV(1)(2)】乗用1,000kg(定員15名) 扉0.9 かが内法1.6×1.5 【EV(3)(4)】寝台用1,000kg(定員15名) 扉1.2 かが内法1.5×2.5 【EV(5)】人荷用1,300kg(定員20名) 扉1.1 かが内法1.3×2.50 【EV(6)】乗用750kg(定員11名) 扉0.9 かが内法1.4×1.35
小荷物昇降機	【DW1】200kg×1台 扉0.9 かが内法0.9×0.9
エスカレーター	【ESC】幅600型 上・下各1台

空調換気設備

熱源設備	空冷インバータモジュールチラー、空冷ビル用マルチ
空調設備	冷温水2管式、冷媒方式、加湿設備(気化式、蒸気式)
換気設備	外気処理用空調機、全熱交換ユニット、検査排気、感染排気、厨房排気
排煙設備	中央監視設備、集中コントローラー

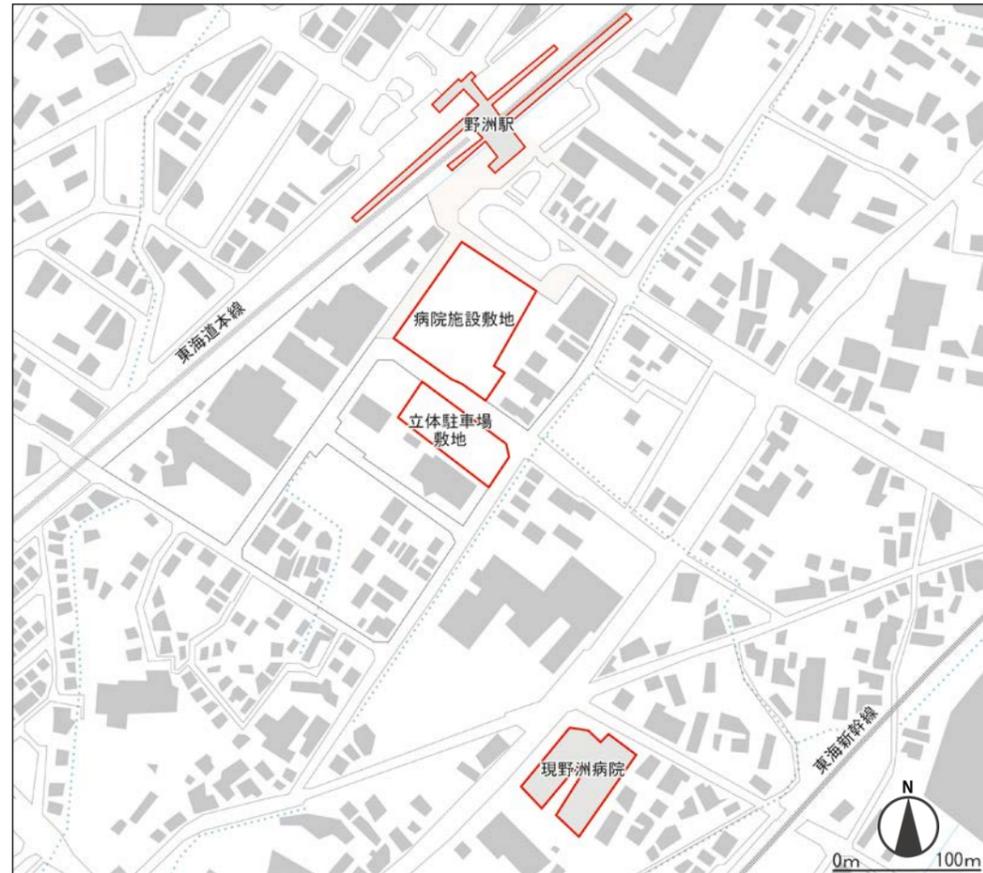
給排水衛生設備

給水設備	上水：受水槽+加圧給水方式 雑用水：受水槽(RC製埋設)+加圧給水方式
排水設備	自然流下方式(建物内分流、トイレ内汚雑合流、屋外汚雑合流) 下水本管へ放流
給湯設備	マルチガス瞬間湯沸器、電気温水器
消火設備	スプリンクラー設備、連結送水管
ガス設備	都市ガス(低圧)
特殊設備	特殊排水処理設備(中和滅菌)、医療ガス設備

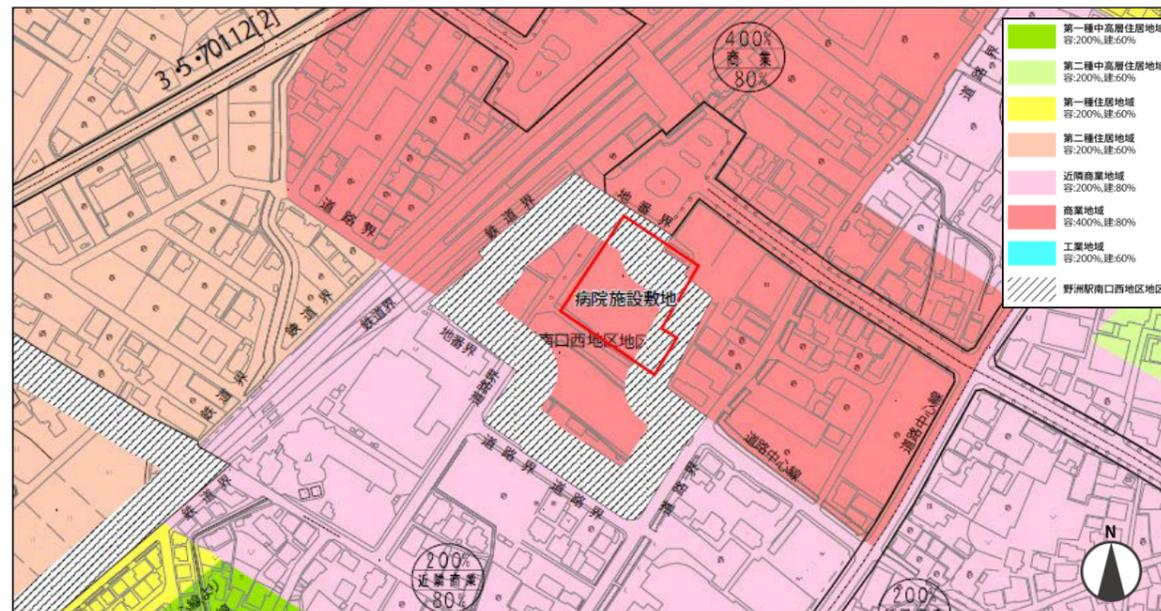
2 設計条件

I 地理的条件

1. 案内図



2. 都市計画図



3. 敷地現況

- ・ 本敷地は JR 琵琶湖線野洲駅より、約 50mの立地である。敷地は現在、空地であり、野洲市の「野洲駅南口周辺整備構想」の一環として「交流/商業施設」と一体的に計画が進められている。

4. 敷地概要

項目	内容
所在地	野洲市小篠原字向平田2203番1他
敷地面積	病院施設敷地:約 5,500 m ² 立体駐車場施設敷地:約 3,600 m ² の一部
主要道路(病院施設敷地)	北側:下水門支線(幅員 8.0m) 東側:野洲駅南口広場線(幅員 8.6m) 南側:小篠原稲辻線(幅員 6.8m) 西側:野洲駅下水門線(幅員 7.0~9.8m)
用途区域等	商業地域
防火地域	防火、準防火地域外、法 22 条区域の指定
その他の地域地区	野洲駅南口西地区地区計画、野洲駅南地区(景観計画区域)
容積率	400%
建ぺい率	80%
高さ制限	絶対高さ制限:無
壁面の位置の制限	無
斜線制限	道路斜線:有、隣地斜線:有、北側斜線:無
高度地区による高さ制限	無
日影規制	無

5. 気候条件

項目	内容
気象データ(大津観測所。気象庁ホームページ内気象統計情報より)	
最高気温	37. 5℃(2015年8月12日)
最低気温	-6. 6℃(1981年2月27日)
最大風速	12. 0m/s 向き:東(1994年9月29日)
瞬間最大風速	26. 4m/s 向き:西(2010年12月3日)
最大降水量	(1日)170. 5mm/日(2013年9月15日) (1時間)75. 0mm/h(2004年7月10日)

3 建築計画

I 配置計画、外部動線計画

1. 配置計画

(1) 病院本館

- ・ 病院は、野洲駅に面した立地を活かし、駅からの見通しが良くアプローチが容易な計画とします。
- ・ 病院の主出入口は、北側の「ヘルスケアストリート」に面して計画。病院のエントランスである「ヘルスケアパーク」、「ヘルスケアストリート」、「交流/商業施設」は、将来の「野洲駅南口周辺整備構想」と呼応しながら、将来整備が予定される「市民広場」、「文化・スポーツ施設」までの安全なアプローチの確保と、人の流れを生む計画とします。

(2) 立体駐車場

- ・ 立体駐車場から病院本館へは、メインの外来患者フロアとなる2階へアプローチできるよう計画します。立体駐車場と病院は、屋根つきの連絡通路（「市民デッキ」）で連絡させることで、雨に濡れずに安全な来院が可能な計画とします。

(3) 病院附属建物

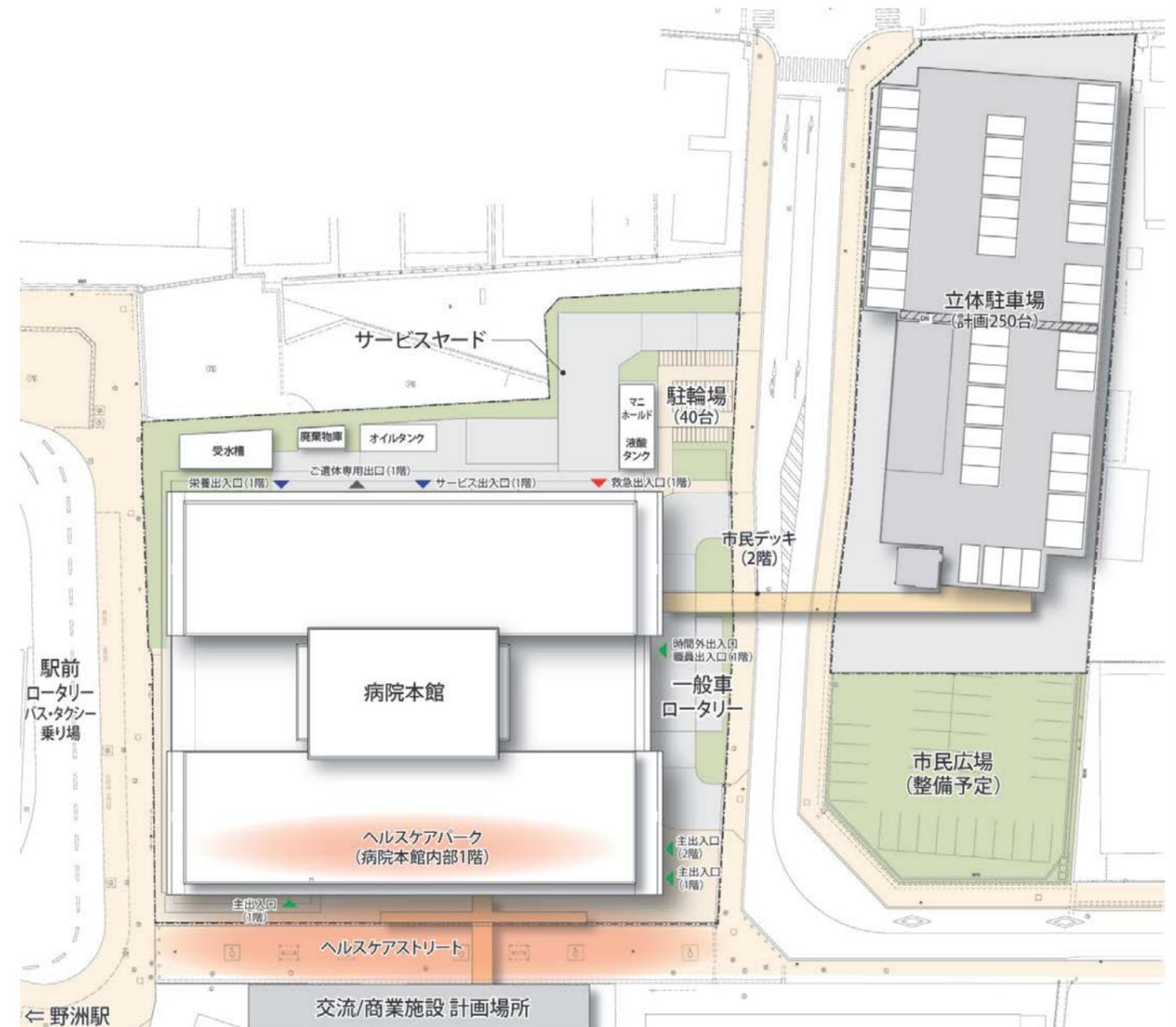
- ・ 敷地南側サービスヤードに附属建物（受水槽、廃棄物庫、マニホールド、オイルタンク（埋設）、液酸タンク）を配置し、メンテナンスが安全に行える計画とします。

(4) 一般車ロータリー

- ・ 駅前の渋滞を避けるため、敷地西側に雨に濡れずに送り迎えができる安全な一般車ロータリーを計画します。

(5) 駐輪場

- ・ 患者用の駐輪場は、敷地西側へ計画。病院出入口まで歩道を設け、安全なアプローチを確保します。



配置図

3 建築計画

I 配置計画、外部動線計画

2. 外部動線計画

(1) 外来者

1) 一般車両

- ・ 送迎の一般車両は、南側の市道から一般車ロータリーへアプローチする計画とします。
- ・ 市道を挟んだ、立体駐車場から病院2階へは、雨に濡れない「市民デッキ」により、アプローチする計画とします。

2) 歩行者

- ・ 野洲駅前から1階、2階へ安全にアプローチできる歩行者動線を設けます。

3) バス・タクシー

- ・ 駅前の立地を活かし、病院へのバス、タクシーの乗入れは行わない計画とします。利用者は、駅前ロータリーより、アプローチする計画とします。

4) 時間外来院者

- ・ 見舞客と救急外来者等の時間外出入口は、一般車ロータリー脇の夜間受付に面した出入口を利用する計画とします。

(2) 緊急車輛

1) 救急車

- ・ 敷地南側の市道に面して、救急部門へダイレクトにアプローチできる、出入口を計画します。

2) 災害車両（消防車）

- ・ 敷地北側の駅前ロータリーと南側市道の2方向からアプローチ可能な計画とします。

3) 物品供給・サービス用車両

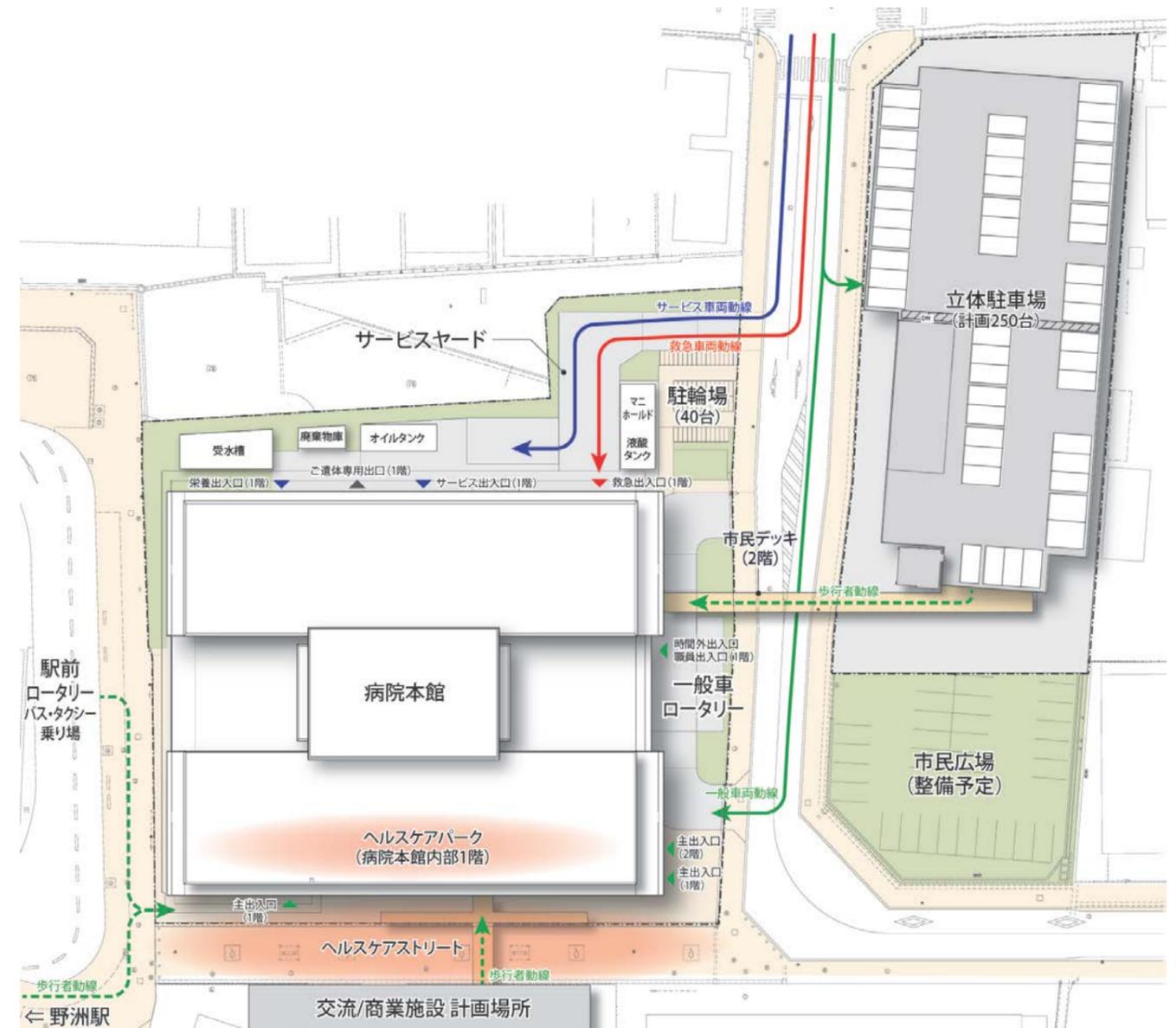
- ・ 敷地南側の市道からサービスヤードにアプローチする計画とします。

4) 職員

- ・ 職員出入口は1階に集約し、外来者の出入口とは明確に区別します。

(3) ご遺体搬送用車両

- ・ 1階東側にご遺体専用の出口を設け、お見送りはサービス車両動線を利用します。



外部動線計画

3 建築計画

II 部門配置計画

1. 部門配置（階構成）の基本方針

- 患者、職員、供給動線の短縮化を図るため、平面形状のコンパクト化に加え、各部門の機能を垂直的に配置、直結する計画とすることで、機能連携を強化します。

2. 部門配置（階構成）計画

(1) 駅側に開いたアメニティゾーンとワンフロアの外来部門

- 「ヘルスケアストリート」に面して、「ヘルスケアパーク」を計画し、地域に開いたエントランスとアメニティゾーン（野洲けんこうホール、情報コーナー、コンビニ+イトイン）を計画します。
- 2階に外来部門をワンフロアで集約。外来部門へは、「立体駐車場」、「交流/商業施設」から雨に濡れずにアプローチできる計画とします。
- 「ヘルスケアパーク」と外来部門は、エスカレーター、専用エレベーターにより、アプローチのしやすい構成とします。

(2) 救急外来と連結した放射線部門

- 1階に配置した救急外来は、外部からの専用アクセスを確保すると共に、放射線部門のCT、一般画像診断に隣接配置させることで、救急時における迅速運用も可能な計画とします。

(3) 1階に集中させた供給部門

- 1階東側に薬剤部門、SPD・倉庫、栄養部門等の供給部門を集約配置します。
- 患者動線との交錯を避けた物品搬出入ルートを確認する事により、人と物の動線分離をおこない搬送の効率化を図ります。

(4) 水平連携の取りやすい3階診療部門

- 3階手術部門は、検体検査部門、中央材料部門と隣接し迅速な連携が可能な計画とします。

(5) 2看護単位/1フロア構成による効率的な病棟計画

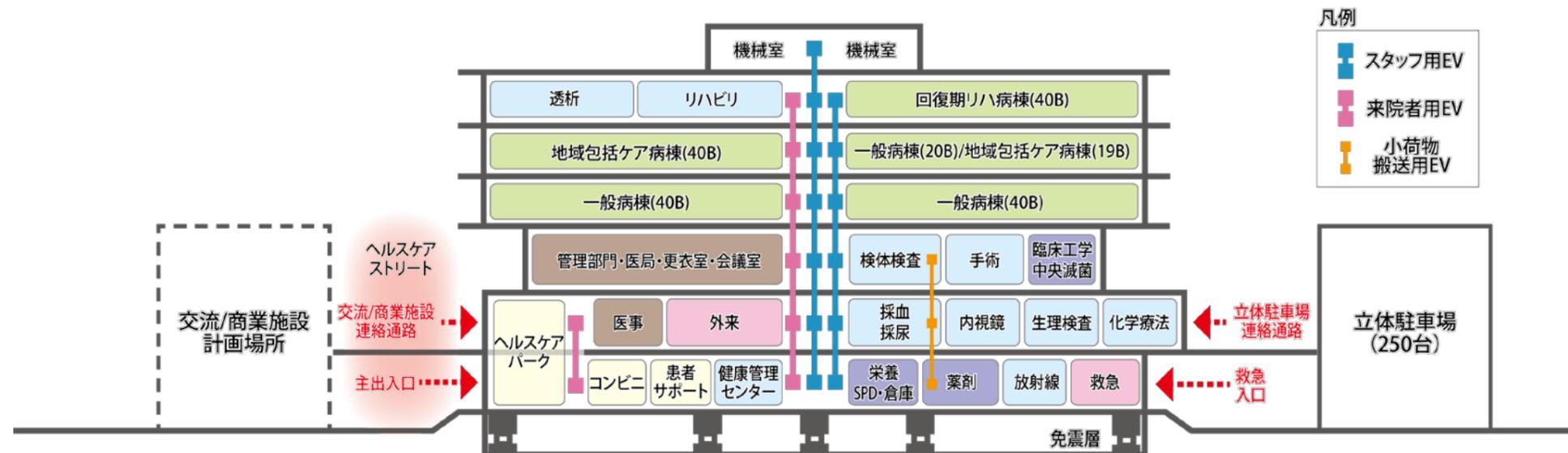
- 4階～6階の病棟階は、1フロアを2看護単位として計画します。
- 4階には、手術部門との迅速連携を考慮し、一般病棟（40床）を2看護計画します。
- 5階には、地域包括ケア病棟（40床）と一般病棟（20床）+地域包括ケア病棟（19床）を計画します。
- 6階には、回復期リハビリ病棟（40床）とリハビリテーション部門を計画することで、リハビリテーションの連携を充実した計画とします。
- スタッフ専用の中央搬送エレベーターをスタッフゾーンの中央に配置することで、搬送の効率化とスタッフ連携がしやすい計画とします。

(6) 病床数の考え方

- 各病棟の病床数を下表のように計画します。

階	病棟名		内訳							個室率
			個室				4床室	病床数		
			特室	重症	1床室	計				
6階	6階南病棟	回復期リハ病棟	室	-	4	-	4	9	-	-
			床	-	4	-	4	36	40	10.0%
5階	5階北病棟	地域包括ケア病棟	室	-	4	4	8	8	-	-
			床	-	4	4	8	32	40	20.0%
5階	5階南病棟	一般病棟、 地域包括ケア病棟	室	1	4	2	7	8	-	-
			床	1	4	2	7	32	39	17.9%
4階	4階北病棟	一般病棟	室	-	4	4	8	8	-	-
			床	-	4	4	8	32	40	20.0%
4階	4階南病棟	一般病棟	室	-	4	4	8	8	-	-
			床	-	4	4	8	32	40	20.0%
病棟計				1	20	11	32	164	199	16.1%

病床数内訳



各階部門構成図

3 建築計画

Ⅲ 平面、部門機能計画

■ 基本方針

(1) 効率的な連携が可能な部門配置計画

- ・ 各部門ブロック分けを明確に行い、関連部門間の緊密な連携と効率的運用が図れる計画とします。
- ・ エレベーターや階段等を適切に配置し、上下間の部門連携が迅速に行える計画とします。

(2) 分かりやすい動線計画

- ・ 供給部門(物品管理部、栄養部門、薬剤等)は1階に集約配置し、人と物の流れを明確に分離する事により、迅速で効率的な運用が可能な計画とします。
- ・ 患者、外来者が主に利用する2階において、患者動線をスタッフ動線と明確に分離し、分かりやすく利用しやすい計画とします。また、エレベーターを一般用と職員用に明確に分離し、上下移動においても動線交錯のない、効率的な運用が可能な計画とします。
- ・ 2階の「ホスピタループ」を中心に外来受付・待合まで見渡すことのできる、迷わないコンパクトなゾーニングとします。

■ 1階 平面構成

(1) 出入口計画

- ・ ホスピタルパークの野洲駅南口側と市民広場側に来院者の主出入口を計画します。
- ・ 一般車ロータリーに面して、送迎待ちができるロビー「(仮称) ゆきあいロビー」(以下「ゆきあいロビー」とする)を計画します。
- ・ 職員出入口、供給部門搬入口等は来院者動線と分けた計画とします。
- ・ サービスヤードには、薬剤、洗濯・リネン・SPD、栄養の出入口を各々設け、動線を明確に分離します。サービスヤードは風雨の影響を受けないピロティ形状とし、効率的な作業を可能とします。

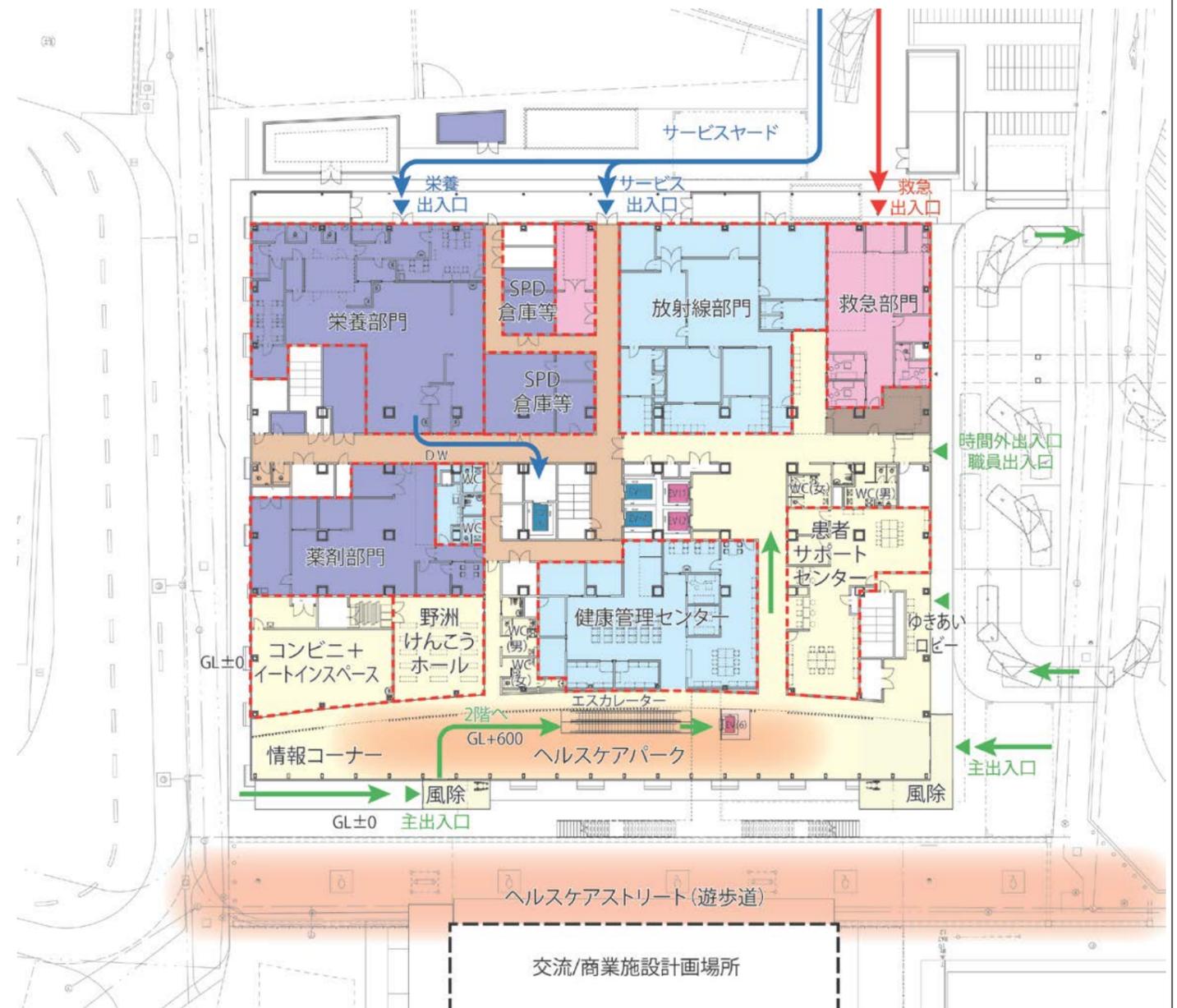
(2) 平面構成

<エントランスホール：「ヘルスケアパーク」>

- ・ 「ヘルスケアパーク」は明るいエントランス空間とします。
- ・ 2階外来部門へは、吹き抜けに面したエレベーターとエスカレーターで誘導します。
- ・ 「(仮称) 野洲けんこうホール」(以下「野洲けんこうホール」とする)、「コンビニ+イトイン」などを設け、スタッフ・病院利用者だけでなく、地域の方も利用できる開放的なアメニティ空間を計画します。
- ・ 「野洲けんこうホール」は市民講座等様々なイベントに利用可能な計画とします。

<供給部門>

- ・ 薬剤部門、栄養部門、SPD、倉庫等を建物中央のスタッフ用エレベーター群を囲むように計画し、各階に迅速に供給することが出来る計画とします。
- ・ 栄養部門は、他の供給部門と分離した計画とし、給食用エレベーターを設けることで、各病棟への独立した動線確保と迅速供給が可能な計画とします。
- ・ 電気・機械等のメンテナンスや機器の搬出入は、建物南側のサービスヤードから行うことが出来る計画とします。



凡例	外来部門	管理部門	患者廊下	救急動線
	診療部門	病室	一般用 EV	来院者動線
	供給部門	スタッフ廊下	スタッフ用・給食用 EV	サービス動線



1階平面図

3 建築計画

Ⅲ 平面、部門機能計画

■ 2階 平面構成

(1) 出入口計画

- 「立体駐車場」と「交流/商業施設」からのアクセスを考慮し、雨にぬれない連絡通路でアクセス可能な計画とします。

(2) 平面構成

<動線の明確化：「ホスピタルループ」の設定>

- 外来部門、外来関連診療部門、医事部門、地域連携を結ぶ外来動線として、ホスピタルループを計画します。
- ホスピタルループに面して、各診療科の受付を計画し、外来患者さんにとって関連部門が認識しやすく、利用しやすい計画とします。

<外来部門>

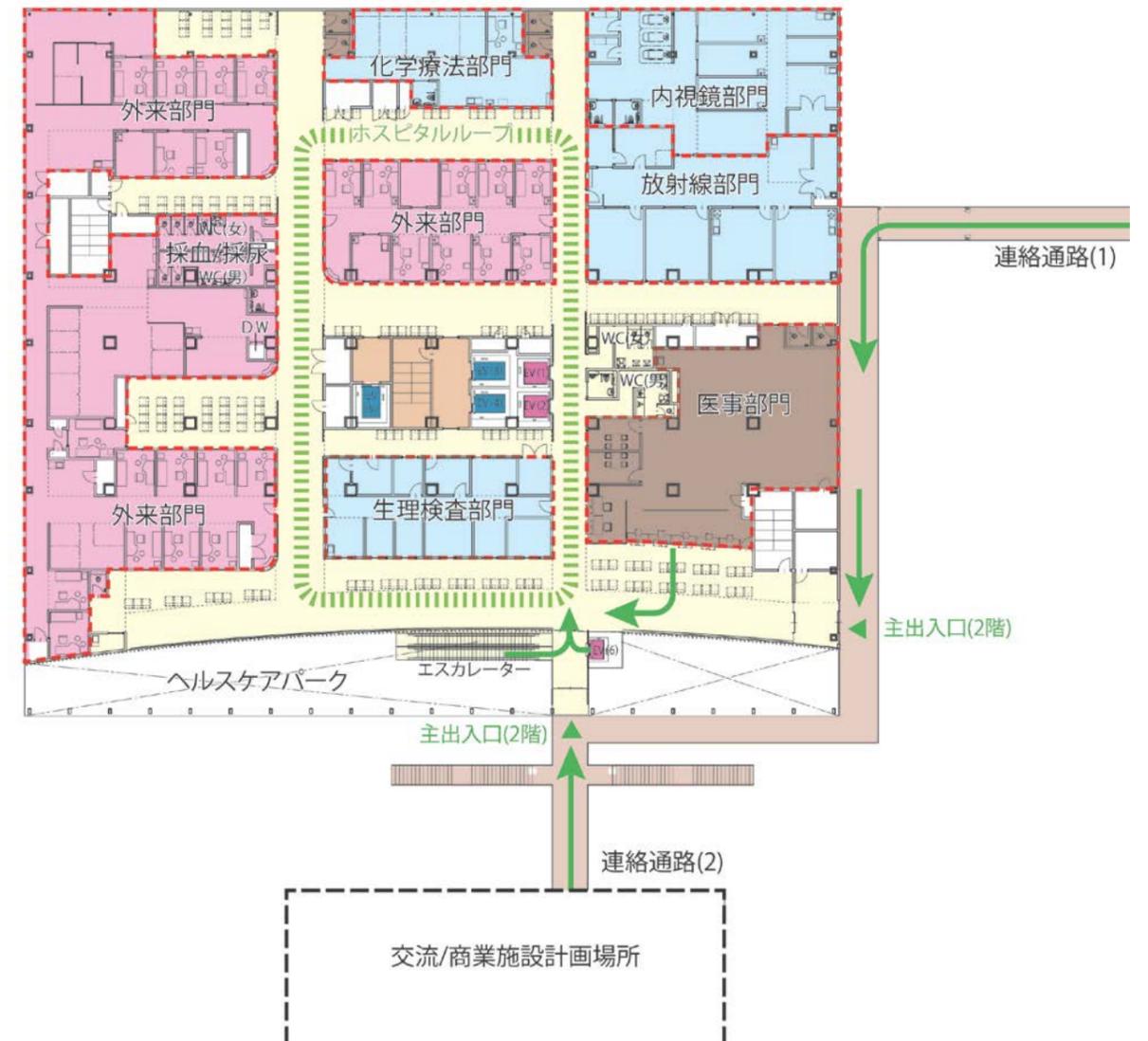
- 外来部門の受付は「ホスピタルループ」から見通すことができ、迷うことのない配置とします。
- 「ヘルスケアパーク」から専用エレベーター・エスカレーターにより、直接アプローチできる計画とします。

<診療部門>

- 外来患者さんの利用頻度が高い中央処置室、採血室、採尿室は外来部門の中心に計画します。
- 採取した検体は、3階検体検査室と小荷物専用昇降機により直結し、検体処理を行います。
- 化学療法部門は、患者さんのプライバシー確保等を考慮し、人の行き来が少ない落ち着いた環境に計画します。

<医事・地域連携（患者サポートセンター）>

- 外来部門に隣接した医事部門に、総合受付及び各受付カウンターを配置します。
- 地域連携（患者サポートセンター）を総合受付に隣接して配置することで、患者さんの利便性と、職員の連携を考慮した計画とします。



凡	外来部門	管理部門	患者廊下	救急動線
例	診療部門	病室	一般用EV	来院者動線
	供給部門	スタッフ廊下	スタッフ用・給食用EV	サービス動線



3 建築計画

Ⅲ 平面、部門機能計画

■ 3階 平面構成

(1) 平面構成

- ・ 北側ゾーンに手術部門、中央滅菌室、検体検査部門、臨床工学部門をまとめ、連携可能な計画とします。
- ・ 南側ゾーンに管理部門の医局や事務局、厚生諸室を配置し、スタッフ動線と来院者動線を明確に分離した計画とします。

<診療部門>

- ・ 手術部門は中央ホール型とし、患者の入替の効率を重視した構成とし、効率的運用が可能な計画とします。手術室は3室設置し、内1室をBCR対応として計画します。
- ・ 手術部門と検体検査部門を近接配置し、迅速な対応が可能な計画とします。

<供給部門>

- ・ 中央滅菌部門は手術部門に隣接させることで、効率的一体運用が可能な計画とします。

<管理部門>

- ・ 南側ゾーンに医局と管理・事務関係諸室の管理部門を集約配置し、相互連携の強化と効率的運用が可能な計画とします。
- ・ 医局への来訪客は、管理部門受付で確認の上、面談室・会議室などで対応し、来客が医局室内へ入らない運用とします。
- ・ サーバールームは、重要室として、セキュリティのしやすい管理部門の中央に配置します。



凡	外来部門	管理部門	患者廊下	救急動線
例	診療部門	病室	一般用EV	来院者動線
	供給部門	スタッフ廊下	スタッフ用・給食用EV	サービス動線



3階平面図

3 建築計画

Ⅲ 平面、部門機能計画

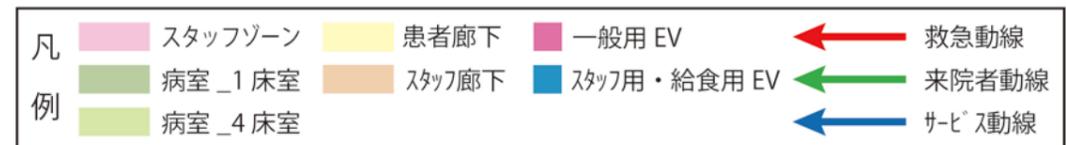
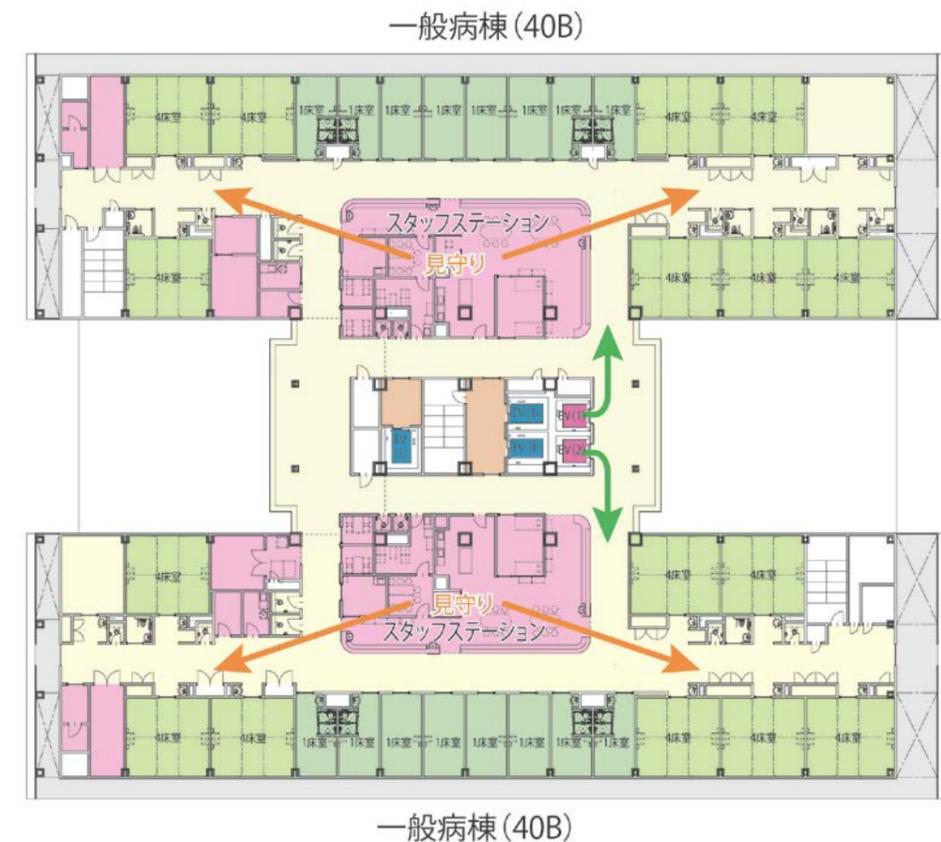
■ 4階～6階 平面構成

(1) 各科病棟の構成

- ・ 病棟構成は、縦動線であるエレベーターゾーンを中心に、1フロア2看護単位として、4～6階に5看護単位を計画します。
- ・ 一般用エレベーターホールは、2つの病棟の中央に配置し、エレベーターを出た正面に「市民広場」が望めるアメニティスペースとして計画します。
- ・ 病棟セキュリティは、一般用エレベーターホールからスタッフステーションの受付を通らないと病室廊下に入ることができない配置とし、スタッフステーションで来院者の出入管理が確実にできる計画とします。
- ・ スタッフステーションの周囲にリハビリ室、重症対応の個室を配置することで、見守りしやすい配置とします。また、カウンターはオープンタイプを基本とし、作業スペースとして必要な部分に壁を設けた計画とします。
- ・ 物品搬送は、病棟中心に配置したスタッフ用エレベーターを利用する計画とします。スタッフステーション間の専用動線を設ける事により、搬送の効率化と看護業務の連携強化が図れる計画とします。

(2) 平面構成

- ・ 4階～6階までの病棟は、病棟ごとの特性を反映しながら、下記を基本方針として病棟全体を計画します。
- ・ スタッフステーションを中心とした計画とし、見守りがしやすく、看護動線の短い計画とします。
- ・ 療養加算 8 m²/人の取得が可能な計画とします。
- ・ 下階の手術部門への搬送が容易な計画とします。
- ・ 建物の中心にデイルーム、特浴、洗濯、パントリー等の共用スペースを設けることで、利用しやすく効率的な計画とします。



3 建築計画

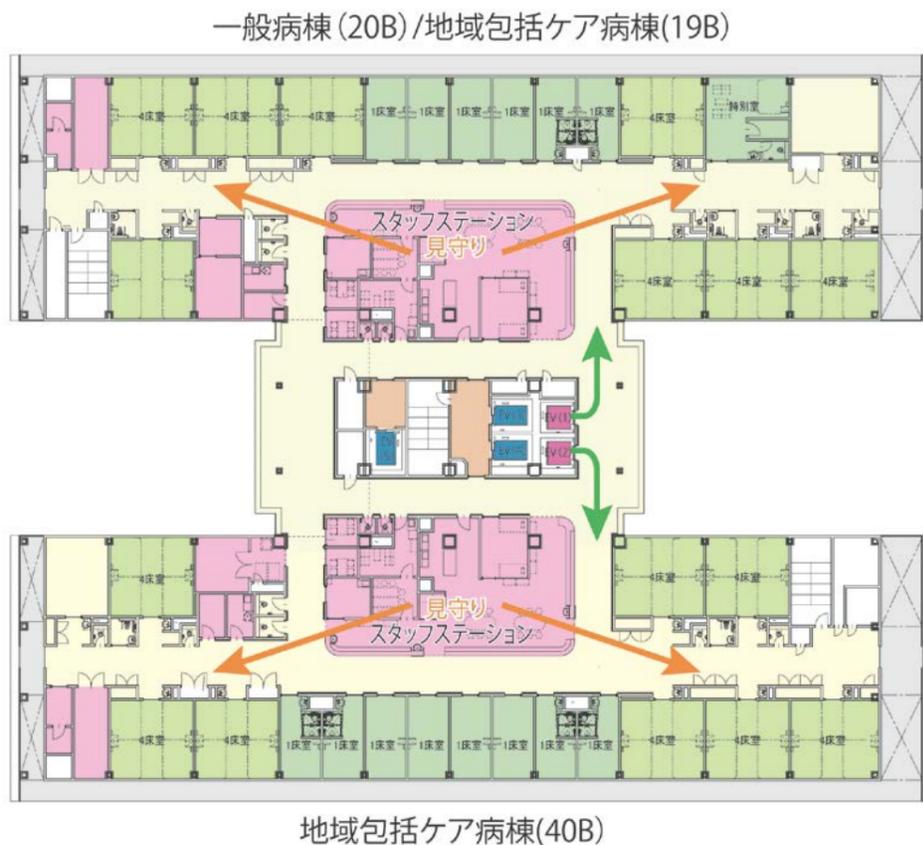
Ⅲ 平面、部門機能計画

<診療部門：リハビリテーション部門>

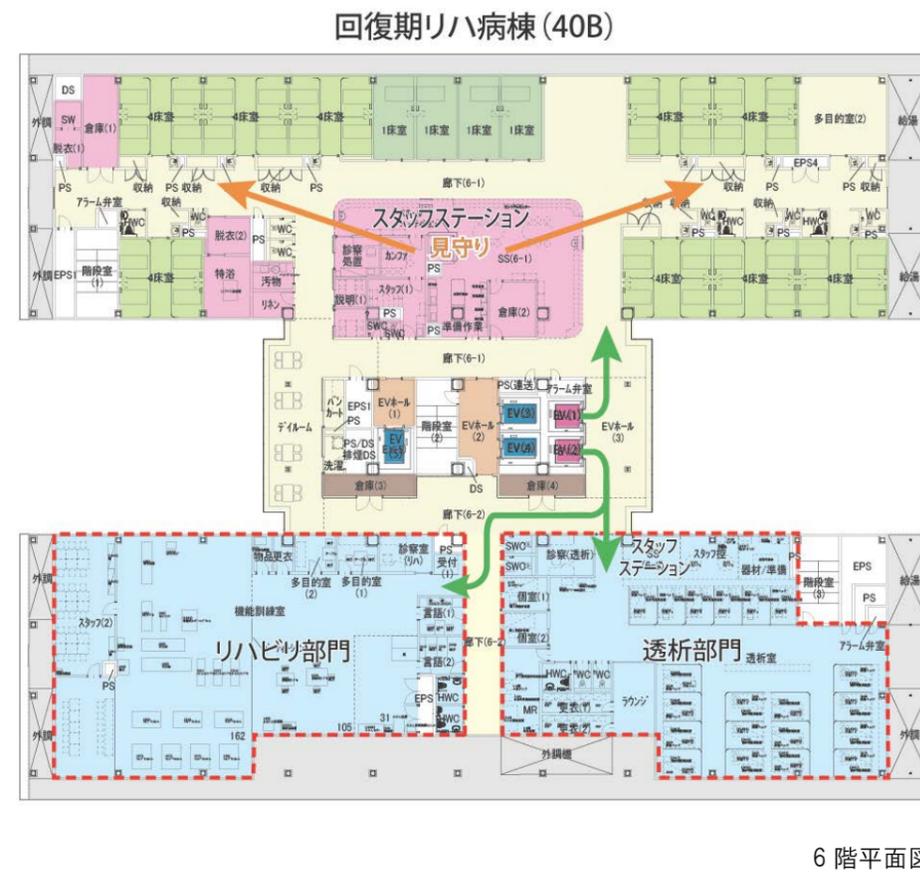
- ・ リハビリテーション部門は、運動器（I）・脳血管疾患（I）・呼吸器（I）・廃用症候群（I）・心大血管疾患（I）の基準を満たす計画とします。

<診療部門：透析部門>

- ・ 透析部門は一般用 EV ホールに隣接して配置することで、夜間透析の際もわかりやすい計画とします。
- ・ スタッフステーションは透析部門の中心に配置し、透析患者を見守りやすい計画とします。
- ・ 感染症対応の個室（陰圧制御）を2室設けます。



5階平面図



6階平面図

